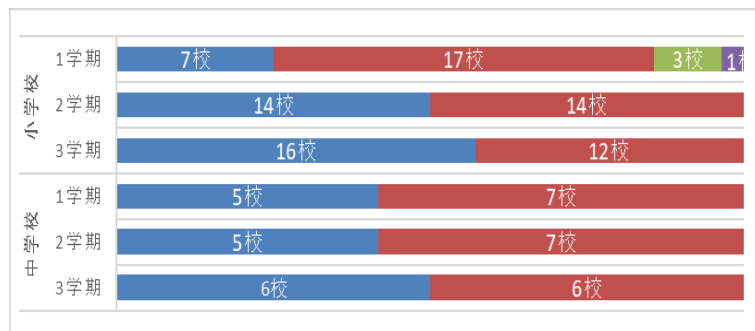


令和3年度いじめ防止対策改善プログラム自己点検シート（まとめ）について

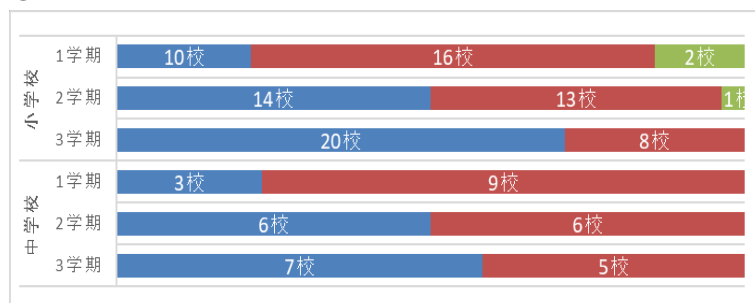


①互いに認め合い、支え合い、助け合う仲間づくりができたか



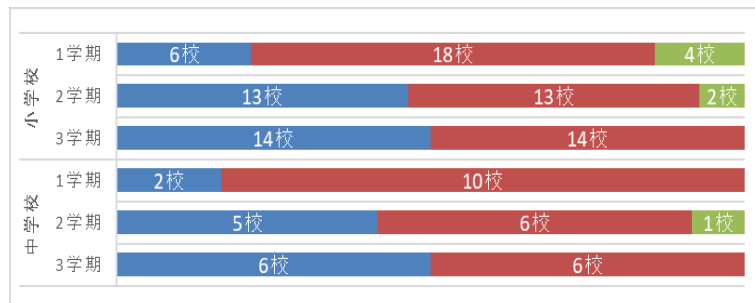
- 児童会を中心とした縦割り活動を実施した。
- 児童会でいじめ防止の動画を作成した。
- 日頃のありがとうが届くような手紙を全員で書いて届けた。
- 自己肯定感や自己有用感の高まりを目的とした取組の充実を図った。
- コロナ禍において子どもを交えて知恵を出し合い、活動の充実を図った。

②命や人権を尊重する豊かな心を育むことができたか



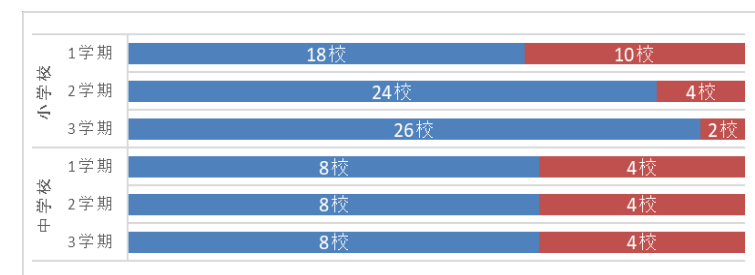
- 自己肯定感を高める「道徳」の授業づくりを実施した。
- 中学校区ユニットでいじめ防止の取り組みを行っている。
- リーフレットを活用して授業をし、大人へ相談できる力を育成した。

③家庭や地域への働きかけができたか



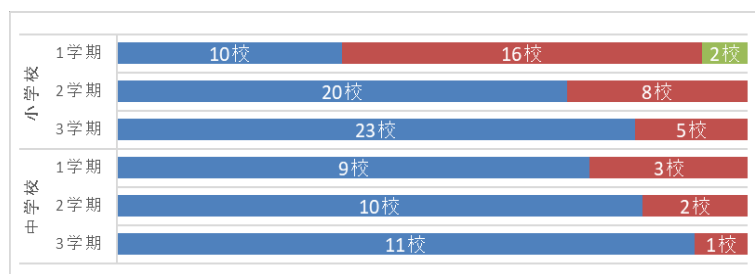
- 普段の学校生活の様子を糧に映像で配信した。
- 参観授業等が実施できなかったため、学校、学級通信を発行した。
- 毎月1度、命や人権を尊重する豊かな心をはぐぐめるような教材を児童が家庭に持ち帰り、保護者と一緒に話し合う機会を設けている。

④学校環境適応感尺度「アセス」が適切に活用できたか



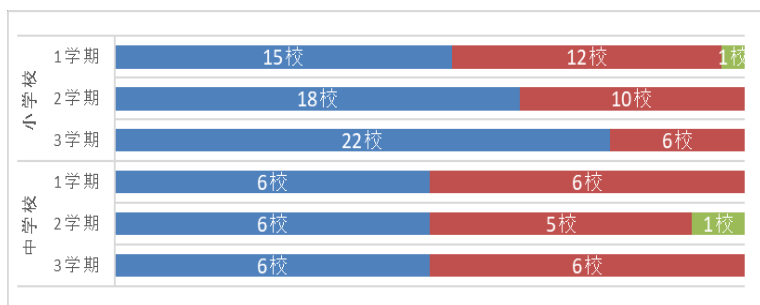
- 全小・中学校でアセスを実施した。非侵襲的関係の値に着目し、アセスメントを行うことで、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に努めた。
- アセスの結果を踏まえて3学期も引き続いて支援することができた。

⑤児童生徒の相談行動の促進ができたか



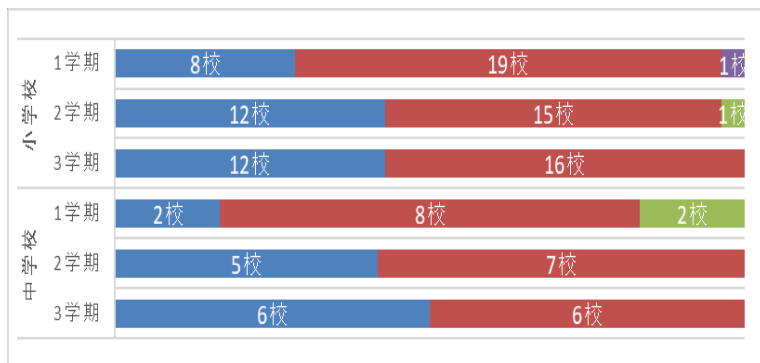
- 全児童生徒を対象とした教育相談を実施した。
- 学校独自のアンケートの実施や定期的に児童が相談できる機会を設けている。
- 生活ノートを活用し、生徒の悩みや不安の早期発見に努めている。

⑥双方向からの実態把握と情報共有がなされたか



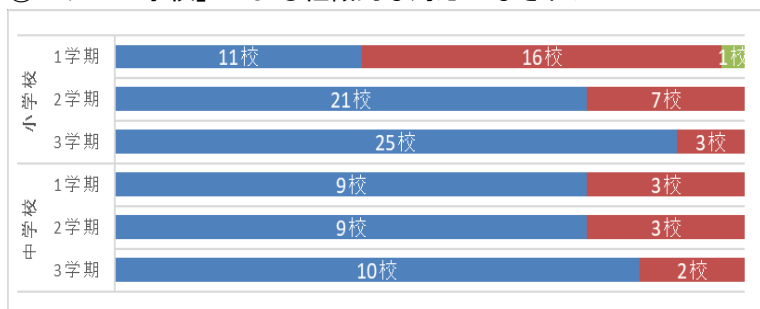
- 保護者アンケートを実施し、いじめ防止に関する項目で高評価を得た。
- 教育相談時に学級担任以外の相談窓口を準備した。

⑦研修の充実による教職員の資質と指導力の向上がなされたか



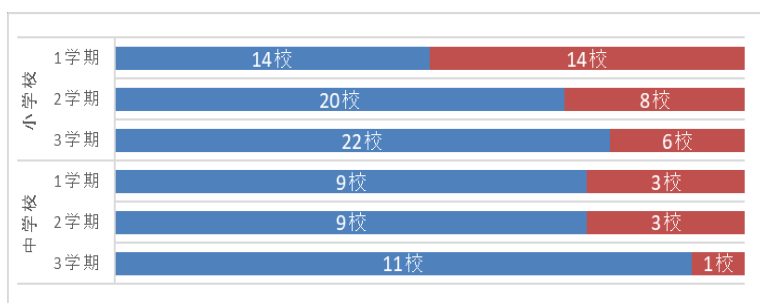
- 情報共有シートや学年引継ぎシートなどあいまいになっていたことを整理し、指導体制の見直しを図った。
- 「いじめ」に対する教職員の認識をさらに変え、より些細な友人間のもつれやトラブルもいじめとして捉え、いじめの認知件数を増やし、「いじめの見逃しゼロ」を目指している。
- 規模を縮小しての教職員研修を行っている。

⑧「チーム学校」による組織的な対応がなされたか



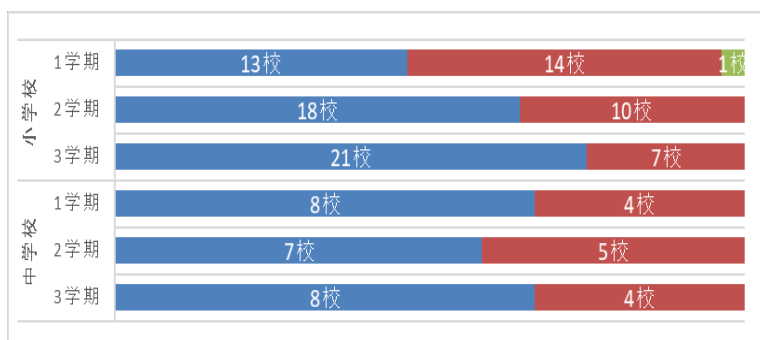
- 教職員だけでなく、SC、SSW、SA等でも情報を共有し、対応した。
- 気になる児童生徒について職員全体で情報共有し、いじめの未然防止に努めた。
- 教育相談COを中心に関係機関等と連携してケース会議を行った。

⑨関係機関との連携を強化した取組がなされたか



- 事案によっては関係機関に協力を要請し、迅速かつ組織的な対応を行った。
- インターネットトラブル防止講座を実施した。

⑩推進体制・検証体制を整える取組がなされたか



- 何か事案があった場合は情報共有をすすめる体制ができています。
- 道徳科等において「ローテーション授業」を実施するなど、普段から複数の教師の目で子どもたちを見守ることができる体制を組んでいる。
- いじめ対策改善プログラム等の生徒指導全般に関わる校内のきまりについて、全職員で検討・改善をおこなった。